



校種別で行う研修の第6回は、小学校は外国語科授業づくりと理科授業づくりについて、中学校は各教科授業づくりと道徳科授業づくりの内容で研修を行いました。中学校の研修の際には、トライやる・ウィークで研修所に来ていた中学生4名が研修の運営補助にあたりながら、初任者の先生方が熱心に学ぶ姿を目の当たりにすることができました。

小学校

【外国語科授業づくり①・②】

○研修に向けて

- ▶私自身英語が苦手なので、教えるとなると不安に感じます。
- ▶外国語科では、デジタル教科書を使って、児童が外国語に慣れ親しめるよう活動を計画しています。そのため多くの児童は外国語を楽しみながら学習に取り組んでいます。しかし、外国語になじみのない児童にとっては難しいと感じる場面もあるようです。授業づくりについて学び、どの児童にとっても学びたいと思える授業をしていきたいと考えています。
- ▶グローバル社会で生き抜くために、外国語に慣れ親しむことは重要であると思います。さらに小学校での学習は、中学校での学習に向けて取り組まなければならないと思います。しかし、外国語の授業をどのように展開すれば良いのかが分かりません。ALTと連携を図り、児童が外国語に慣れ親しむことができるような授業づくりの方法を学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶外国語活動と外国語科のつながりが少し分かったように感じます。今までは、教科になることで大きな違いがあると感じていましたが、慣れ親しみながら行う部分が、外国語科でも含まれていると知ったので、外国語活動から外国語科への移行がスムーズに行えそうだと思います。授業づくりにおいては、コミュニケーションをとることを大切にしながら、アクティビティを活用し、体験的に英語に触れることや、達成感を感じさせることで、「外国語って楽しいな」と思えるように授業を構成していきたいです。また、タブレット端末等も上手に活用しながら、さまざまな経験をさせることができたら良いと思いました。
- ▶外国語活動と外国語科では「コミュニケーションを図る」ことが目標の一つになっています。実際に、2分間英語だけを使って会話をしてみました。会話を続けることは難しかったです。様々な言語活動を授業の中に取り入れることで、コミュニケーションの資質・能力を育成していきたいと思いました。言語活動を取り入れる際には、児童にどのような力を身に付けさせたいのかという目的をしっかりとっておきたいです。

小学校

【理科授業づくり②】

○研修に向けて

- ▶理科を担当しておらず、教材の準備や実験の準備など、分からない部分が多いため、できるだけ多くのことを学びたいです。他の教科に比べても、実際に経験してこそその教科だと思うので、そのためにどのように授業を作るべきなのかを考えていきたいです。また、何を学ばせたいのか、何を身に付けさせたいのか、しっかりとめざす子どもの姿を想定して授業が作れるようになるために、自分の中の引き出しを増やしていきたいと思います。
- ▶理科は授業をしたことがありませんが、どれだけ興味をもたせられるかが大切だと考えます。興味を引く導入から課題を解決するところまで、子ども達が主体的に学べるような授業ができる自信がないので、その点を意識して学びたいと思います。
- ▶理科の授業を今はしていませんが、実験が多く、教材研究や準備がより大切な授業だというイメージがあります。子ども達が問題から答えを予想し、実験を通して「そういうことか」と納得のいく答えが出せるような授業の流れを作れるように学んでいきたいです。

○研修の振り返り

- ▶前半の研修では、微生物を顕微鏡で観察して、何が見付かるのか、どのような微生物がいるのかがとても気になりました。同じように児童も、教員が教えるより、実験や観察を通して実物から教えてもらうことの方が、児童の主体性や意欲に繋がっていくと改めて感じました。わくわくする分、実験の注意点などはしっかりと押さえてから観察に臨ませたいです。また、Jamboardを使うことで、班の意見交流や、見付けたものの交流がスムーズにできたと思います。後半の研修は、理科実験の進め方について模擬授業を見て考えました。児童が問題を設定することや、異なる結果が出た時に、失敗で終わらせず原因を考えさせることで、正確な結果に最終的に持っていく方法もとても参考になりました。
- ▶観察を実際にしてみて、主体的に取り組み考えるという部分を引き出せるのが理科なのではないかと考えました。授業や教材、実験の準備次第で、子どもの興味や関心をいくらでも引くことができる、可能性の大きな教科だと感じました。また、観察した結果を、タブレット端末等を使って共有したり、写真に撮って事実を記録したりと、1人1台端末があるからこそできることが多くあります。また、模擬授業形式の講義においては、子どもの気付きから問題を提示するという実際の授業の流れを学ぶことができました。理解はできていても、実際に単元の中でどのように実践するのかはあまり明瞭ではなかったのが、今回その部分がよく分かりました。わざとズレを生み、そこからうまく授業を進めることで、子ども達の疑問や発見から展開することができるかと学びました。また、実験の結果がうまくいかなくても否定するのではなく、それを問題解決に有効となるように声掛けしたりするなど、工夫が必要だということが分かりました。

▼振り子の実験



▼顕微鏡でプランクトンを観察



▼タブレット端末を用いて共有



中学校【道徳科授業づくり③】

○研修に向けて

- ▶道徳の評価に関して、どのような観点で、どのように評価していけばよいのかをあまり理解できていません。評価の仕方について学び、どのようなことを大切にすべきなのかを知りたいです。
- ▶先輩教員の道徳科の授業を見学する中で、授業の雰囲気づくりや生徒との対話について多くの気付きを得ることができています。どのように生徒と向き合い、学びを深めていくかについて考えていきたいと思えます。

○研修の振り返り

- ▶道徳の評価は、「多面的・多角的に考えられているか」、「自分自身とのつながりの中で深められているか」ということがポイントであると理解することができました。また、生徒の感想にコメントを書く際にどうすれば良いのか悩んでいるところがあったので、今回の授業を通してとてもスッキリしました。生徒が感じたことに共感しながら、豊かな言葉で、生徒が感じたことに寄り添うことができるようなコメントを書けるようにしていきたいと思えます。
- ▶道徳の評価について学ぶとともに、生徒の振り返りに対してコメントを記入する活動を行いました。生徒の意見を認めた上で、ねらいに近付いていくことができるようなコメントを書くことを心がけました。他の先生のコメントを見ていく中で、自分にはない感覚や、気を付けることを学ぶことができました。
- ▶グループで共有しながら、生徒と会話しているような感覚でコメントを考えると、前向きなコメントがどんどん浮かんできました。他のグループのコメントを見ても、見ただけで明るい気持ちになるような言葉が並んでいて、優しい気持ちになりました。生徒にもこのような感覚や気持ちになってもらえるようなコメントが書けるようにしていきたいです。

【国語科】

○研修に向けて

- ▶最近「故郷」の単元を終えましたが、最後の第6場面を扱うところを悩みながら進めていました。どのように進めれば良かったか振り返りながら、様々な授業方法を学びたいと思えます。
- ▶話し合い活動が難しい生徒達が、どのようにすればお互いの意見を尊重し合い合意形成できるか、教員としての上手な促し方やその方法を学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶授業の着地点をどこにするかで、授業内容が変わってくるのが分かりました。「故郷」の中で、「『私』の心境の変化を捉えるのか」、「人と社会との関わりについて捉えるのか」等、様々な視点で作品を考えることができました。あれもこれもと詰め込みすぎると逆に混乱を招いてしまうため、掲げている目標と照らし合わせて、何を中心にして考えさせたいかを明確にすることが大切だと学びました。授業方法として、子ども達に大事だと思うキーワードを探させたり、そのキーワードについて深く考えさせたりした後、時系列に並べさせるなど、参考にしたいものがたくさんありました。どの授業でも、一問一答ではなく、子ども達から多くの答えが出るような発問を工夫して行いたいです。
- ▶研修では、合意形成を図る話し合い活動を体験しました。国語科はもちろん、学活等でも合意形成を図る話し合い活動をすることがあるため、大変勉強になりました。今回は司会者の役割で話し合い活動に参加しましたが、司会者として大切なことは、受容すること、褒めること、方向性を示すこと、出た意見を整理すること、司会者として方向性やゴールをもっておくことなどが挙げられます。生徒が活発かつ、相手を尊重した話し合いができるように指導していく必要があると感じました。

【社会科】

○研修に向けて

- ▶問いやめあての設定の仕方や、その問いの答えに迫るために資料をどの場面で有効的に活用すべきか等、ここまでの研修で学んできたことを実際の授業でも取り入れようとしていますが、正しい使い方ができているか不安があります。子ども達に何を考えさせるのか、ポイントをどこにおくのかなどの細かい部分を研修を通して学んでいきたいです。
- ▶社会は地理、歴史、公民と分野が多岐に渡るので、それぞれの分野や単元によってアプローチの仕方が異なると思います。研修で学ぶことを授業で生かせるようにしたいです。また、様々な先生との交流を通して、授業の導入や展開をどのようにしているか、生徒の興味を引きつけるためにどのような工夫をしているのかを知り、できることを真似していきたいです。

○研修の振り返り

- ▶今回も、実際に授業の具体を考え、様々な展開を学ぶことができました。公民的分野の授業づくりをしていく中で、地理や歴史的分野と関連付けることの重要性が学びました。例えば、選挙について授業をする際には、歴史で学ぶ「普通選挙になる前の世の中のこと」について触れることができます。歴史的分野の授業を行っている段階で、公民的分野へのつながりを予測しながら授業することも大切だと感じました。
- ▶他の先生方がされている授業を聞いて、それぞれのスタイルを大事にしながらも、生徒の活動を中心に取組まれていると感じました。特に生徒に考えさせるところの活動では、タブレット端末等をうまく活用することや、意見を持ち寄って話し合いをすることなど、様々な工夫が必要だと感じ、明日からの授業に取り入れてみようと思いました。また、グループ交流の際に、デジタルツールについての使用頻度や目的について協議することができ、場面に応じてデジタルとアナログを使い分ける必要があり、班での共有なども含めた時間設定が求められると感じました。限られた時間の中で教え込むのではなく、意見を表出させるような活動をするためには何が必要か深く知りたいと思います。

【数学科】

○研修に向けて

- ▶教科書の問題以外の日常の事象や社会の事象から、問題を見出し解決する活動を取り入れた授業づくりができていないので、今回の研修で理解を深めたいと思います。また、1人1台端末を活用する指導の在り方を、他校の先生の実践例を参考に学びたいです。
- ▶「関数」領域は、授業を進めていく中で、「問題は解けるけれど、意味は理解していない」という生徒が一定数いる印象を受けました。「できる」だけでなく「わかる」を生徒から引き出すためにどうすればよいかを学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶PPCDA サイクルという言葉を目にしたことはありましたが、詳しい内容などを理解できていなかったため、新たな学びがありました。また、PPCDA サイクルを意識しながら授業づくりを行うことで、流れが考えやすく、必要な発問や活動を考えていくことができ、データの活用の授業を行う際に、積極的に活用していきたいと感じました。また、データの活用の授業を行う際に、データを表やグラフにまとめることで見やすくなることをおさえ、表やグラフの有用性を伝えていきたいです。
- ▶生徒に考えさせる場面で、考えを「深める」のか、「広げる」のかなど、ねらいに合わせた活動を設定する必要があることを改めて感じました。中には、間違えたり、うまく説明できないのが嫌でなかなか自分の意見を書くことができなかつたりする生徒もいるので、「完璧じゃなくてもいいから、できるところまで頑張ってみよう」と、少しでもチャレンジして取り組ませるようにしていきたいです。

【理科】

○研修に向けて

▶実験をすることで、生徒は学習内容をより理解することができるようになると思います。しかし、量的測定をする実験においては、結果が大きく異なることが起きます。この様な事が起きる実験をする時には、何に気を付けさせるかを学びたいです。

▶化学分野では、目に見えないものについて生徒に考えさせることが多く、うまく理解できていない生徒がいます。その状態で実験に進むと、意味のない実験になってしまいますが、時間数を考えるとあまりゆっくりできない状態になってしまうことがありました。生徒に対して、見えないものを理解できるように指導するにはどのような準備が必要か知りたいです。



○研修の振り返り

▶教科書通りにいかない実験になった際の、結果の処理の仕方について学ぶことができました。なぜそのような結果になるのか、しっかり考える時間がとれるような授業にしていきたいです。また、グラフを書きただけでも、生徒のつまずきがたくさんあることを知りました。1年生の時から丁寧に指導する必要があると痛感しました。

▶実験をただ「楽しかった」だけで終わらせるのではなく、なぜ温度や時間を計測するのか、目的を明確にすることが大切であると改めて感じました。また、より良い考察を考えさせるためには、ワークシートの工夫だけでなく、評価規準や既習事項を明確にしておくことが大切であると改めて感じました。生徒たちに科学的に探究させるためにも、研修で学んだことを明日から実践していきたいです。

【音楽科】

○研修に向けて

▶箏は生徒が普段触ることがない楽器なので、参加意欲は高いですが、それだけになってしまいます。そこから音楽表現に繋がる授業づくりをするためにどうすれば良いか学びたいです。

▶前回の講義で箏について学びましたが、今回はもっと箏について学んでいきたいと思います。生徒が目の前にいると考えると同時に、自分が生徒の立場になった気持ちで箏に向かい、どのようなことが難しいと感じるのか、また、どのようなことを面白いと感じるのかなど、音楽と関連付けて楽しさを伝えていく授業をするにはどのような工夫があるのかを考えていきたいと思います。

○研修の振り返り

▶生徒の身近なものを、風景まで想像し、楽譜と想像したことを結び付けて表現の工夫につなげることで、音楽の要素もからめながら取り組むことができると感じました。工夫したい点を共有してアンサンブルをすると、お互いの音を聴くことができ、上手く演奏できなくても、「楽しい！みんなと音楽ができた」という充実感を味わえると思いました。問い返しをしながら、生徒のイメージと楽譜を関連付けた授業ができるようにしたいです。

▶交響曲第五番というとても頭を悩ませる単元を学べて、本当に勉強になりました。曲の背景や作曲者についての知覚の部分と、それを関連付けて感じる感受の部分はどう引き出していくか、そして生徒達が主体的に自分の言葉で表現するにはどのようなアプローチが必要なのかを学ぶことができました。教科等指導員の先生の授業を受けて、実際に私も興味をもって聴くことができましたし、ワークシートなどのちょっとした工夫で生徒の感じ方がとても広がり、鑑賞の本来の目的に沿った授業づくりに近付いていけるのだと感じました。



【美術科】

○研修に向けて

- ▶生徒にどのように鑑賞させるか、見てほしいところやアイデアなどをどう感じ取らせるか、まずは自分自身が分かっている必要があるため、鑑賞についての考えを知りたいです。また、他の先生方はどのように鑑賞の時間をとっているのかも知りたいです。
- ▶多様な視点で鑑賞を促進する方法や、効果的なまとめ方を学びたいです。さまざまな鑑賞のアプローチが存在する中で、目標をどのように設定し授業を進めると、効果的に学びを深めることができるのかを知りたいです。

○研修の振り返り

- ▶今日の研修では鑑賞活動について検討しました。選んだ作品は風神雷神図屏風で、日本美術の良さをどうやって味合わせることができるのか、まずは造形の要素を挙げて話し合いました。屏風の鑑賞の仕方や、風神雷神の描かれ方や構図などについて、教材研究として深めることができました。次の時間では模擬授業を考えて実践するので楽しみです。
- ▶鑑賞の授業は、発問や内容を繋げていくことが難しいと思いました。他の先生の言い回しや流れなど学ぶところが多く、参考にしたいと思いました。作品の大きさや表現方法の特徴、形や時代背景、作者の特徴などから、生徒たちに興味を持たせて鑑賞していく手立てを考えながら、授業づくりに取り組みたいと思いました。



【保健体育科】

○研修に向けて

- ▶授業に参加する生徒が楽しいと思えるような授業展開の方法や工夫などを学びたいです。また、授業に入る前に生徒達が次の活動に前向きになれるような場づくりの方法や、活動内容を学びたいです。
- ▶生徒が自らの健康に興味をもち、自分事と捉えて授業に参加できる導入や、話の広げ方などを学びたいです。また、本時のねらいを達成するために、どのように授業を組み立てていけばよいのかを学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶「運動することは楽しい」と、みんなで身体を動かすことの楽しさに気付いてもらうためには、様々な配慮が必要だと感じました。良い動きをしている生徒をみんなの前で褒めたり、授業のルールを徹底させたりすることで、より良い雰囲気を持っていきたいです。また、それは怪我の防止にも繋がると感じました。また、コーピングの生徒に対してどういった配慮や声かけが大切なのかを、実際に体験しながら考えることで、自分の授業でもどのように対応していくべきかを考える事ができました。
- ▶その場だけの授業にならないよう、生徒自身が自分事として捉え、これからの生活にいかすことができる内容展開が重要であると改めて気付きました。また、小学校で何を学び、次の段階として中学生ではどう学んでいくかという繋がりをもっと意識すべきだと感じました。学びが重複しないよう、また他教科との連携や体育ならではの学びを大切にできるように、授業準備や教材研究をしていきたいです。



【技術家庭科(技術分野)】

○研修に向けて

- ▶はんだごての実習をする際に、見本をどのように生徒に見せるのかを悩んでいるので、今回の研修で動画教材の活用方法などを学びたいと思います。
- ▶情報化が進む社会で、情報モラルやプログラミングが必要になってきます。必要な知識や技術を生徒たちに身に付けさせるにはどうすれば良いのかを学んでいきたいです。

○研修の振り返り

- ▶実際に自分のはんだ付けの説明を動画で視聴してみると、話すスピードや、説明の流れの悪さ等を感じることができました。自分の説明を客観的に見るためにも、良い方法だと感じました。
- ▶情報の技術の分野において、どのような取り組みや工夫をされているかを知ることができました。この学びを今後の授業へ取り入れたいと思います。同期がどのような取り組みや体験的な学びの機会を設けているかを情報共有できたことで、自分自身の指導の幅が広がったように感じられました。また、この分野における同じような悩みを共有できました。どのような工夫をして解決していくかを一緒に考えられることは、とても心強くと感じました。



【技術家庭科(家庭分野)】

○研修に向けて

- ▶今まで学んできたことを生かして、さらに良い授業ができるように勉強したいと思います。また、ICTを活用した授業について、他の先生方から色々な意見を聞きたいです。消費生活の単元は将来生徒が困らないように、お金の管理についてしっかり学ぶ必要があると思うので、生徒が主体的に学び、記憶に残る授業ができるようになりたいです。環境の範囲についても、他の教科と関連付けて、生徒の意識を高める授業ができるようになりたいです。
- ▶幼児の生活と家族の内容では、幼児との触れ合い体験を取り入れた授業について学びたいです。私自身、触れ合い体験をしたものの、その活動に対する振り返りが十分にできていなかったと感じているので、活動後の振り返りや、今後どう生かしていくのかを学びたいです。

○研修の振り返り

- ▶生徒の生活経験から課題を見出し、授業で学んだこと生かして、どのように課題を解決していくのかを自分で考えさせることが大切なのだと感じました。
- ▶消費生活の範囲は、教員が一方向的に話してしまいがちだと気付きました。しかし、それでは生徒の記憶には残らないと思うので、体験活動を取り入れた記憶に残る授業をつくりたいです。消費生活センターが提供している教材も上手く活用してみたいです。支払い方法が多様化しているので、自分もしっかり勉強したいと思います。
- ▶幼児のふれあい体験後のミニ授業を検討しましたが、実際に活動を行ってそこで終わってしまったらもったいないことが分かりました。実際に生徒は多くの発見や気付きを持ち帰ってきていると思うので、その意見を拾いつつ、さらに学べるようにまとめることが難しかったです。比較するか、年齢別に書くのか、板書一つでも大きく異なることが分かりました。実際に授業で子どもの意見を拾うときも、単に聞くだけでなく、「どうしてそう感じたのか」、「なぜか」など詳しく問い返すことが大切であると学びました。

【外国語科】

○研修に向けて

- ▶ 前回の研修を踏まえて、さらに生徒にとって良い授業をできるようにしたいです。英文を書くことに苦手意識を持っている生徒や、そもそも英語の語順が身に付いていない生徒もいると思うので、そのような生徒にどうやってアプローチしていけばいいのかを学びたいです。
- ▶ 他の領域と関連付けながら「書くこと」を活動に組み込む際に、つまづきを克服したり緩和したりするにはどう指導すれば効果的だろうかと悩んでいます。現在は、モデル文を利用して書き換えさせたり、想定される語彙を提示したりしていますが、まだ足りないと感じているので、何か手立てを増やしたいと思います。

○研修の振り返り

- ▶ まとまりのある文章を書く活動について考えました。どのようなつまづきがあるのか、それに対してどのような支援ができるのか、実際に Jamboard を用いながら体験する中で考えることができました。英語が苦手な生徒に対しては、簡単に組み立てるような型を示したり、他の生徒の良い文章を紹介したりすることも有効であるので、活用していけたらと思います。また、書く際に、教科書等に載っている例に当てはめるだけになってしまいがちですが、使える表現を提示して、表現に幅を広げていくことが必要であると学びました。
- ▶ 比較級の文法を使い、「読むこと」「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の 4 技能を使った総合的な活動をグループワークとして行いました。タブレット端末等を使い、お互いの音声を録音するなど、ICT の活用方法も学ぶことができました。生徒の主体性を育むには見通しを持たせること、また、そこを意識した授業づくりを教員がしなければいけないと感じました。

○トライやる・ウィークの中学生の参加を受けて

- ▶ 英語が嫌いになる理由について、トライやる・ウィークの生徒の貴重な意見が聞けて勉強になりました。特に、単語の覚え方については、何回も書くという方法だけではなく、個人にあったやり方で覚える方が良いと感じました。
- ▶ トライやる・ウィークで来ている生徒のリアルな困っているところが聞けてとても参考になりました。4 人中 4 人が違っており、それがクラスになると 40 人規模になり、その手立てを考えるのはとても難しいと思いました。また時代が進むにつれて、新たなつまづきや疑問も生まれてくると思います。我々が受けた教育を前提に自分の指導を見直すのではなく、その時代に合った教育に照らし合わせて考えていく必要があると思いました。



▼外国語活動のコミュニケーションの様子



▼道徳科 生徒の記述に対するコメントを考える様子

